

地理学会ニュース 2017年度 第2号

法政大学地理学会 2017年9月30日発行

第2回例会(巡検)

テーマ: 荒川上中流の自然と人々の生活

—地質・地形、舟運および洪水対策—

日程: 11月18日(土) 10:30~16:30

集合場所: 秩父鉄道秩父本線 上長瀨駅改札前

集合時間: 10:30

解散場所: 埼玉県立川の博物館

解散時間: 16:30

案内者: 細田 浩、前杵英明、斉藤 圭

参加費用: 一般2,500円 学生1,500円

(交通費は除く)

定員: 最大40名

主な見学場所とタイムスケジュール

- 10:30 上長瀨駅改札前集合(徒歩)
↓
10:40~11:40 埼玉県立自然の博物館見学
(徒歩)
↓
12:10~12:30 親鼻橋から長瀨ライン下り
Aコース
↓
12:30~13:50 長瀨駅周辺で各自昼食、散策
↓
14:05~14:37 長瀨~鉢形に鉄道で移動
(徒歩)
↓
15:00~16:30 埼玉県立川の博物館見学
(解散)
↓
17:05~17:59 鉢形~川越駅
(希望者にて懇親会)

お願い

各目的地においては多少歩くと思います。川下りでは多少濡れる可能性もあります。そのような服装・靴でご参加ください。

また見学のタイムスケジュールはあくまでも目安です。途中、変更があり得ることをご理解ください。

第2回例会(巡検)のご案内

今年度の巡検は埼玉県荒川の上流(秩父)と中流の寄居あたりの地形や地質、またそれらをうまく利用した伝統的生業、また洪水対策の工夫などを主に博物館を利用して学習します。移動は鉄道と徒歩、また長瀨ライン下りでは舟を利用します。

地質や地形については、自然の博物館で見学するとともに、ライン下りによって実際に目でみていただきます。

ジオパークとなった秩父地域は、関東平野西方の関東山地の北東部にあたり、奥秩父山地、上武山地、外秩父山地および秩父凹地帯とに区分されます。「秩父凹地帯」を流れるメインの川が荒川ということになります。秩父地域は、明治時代から日本の近代地質学における数々の先駆的な研究が行われてきました。「秩父古生層」や「三波川結晶片岩」などの命名・研究をはじめ、日本列島の模式となる研究が展開されたことから、『日本地質学発祥の地』と呼ばれています。秩父盆地には新第三系が分布しています。約1,700万年前~1,400万年前の海底に積もったもので、地殻変動にともなう多様な堆積構造や、パレオパラドキシア、チチブクジラ、チチブサワラなど、多彩な化石群集を良好に保存しています。

秩父盆地の荒川沿いなどには、高位(多摩

期)・中位(下末吉期)・低位(武蔵野期～立川期以降)に大きく3区分される河岸段丘堆積物が見られます。これらの第四紀堆積物は、かつての荒川などが氾濫して堆積した礫層とその上位に重なるローム層などで構成されています。江戸時代から秩父は、金・銀・銅・鉛・亜鉛・鉄などの金属鉱石を産出していました。しかし、平成10年代の後半になると、結晶質石灰岩(大理石)を採掘するのみとなりました。

また、林産資源も豊富で荒川の水運を利用して、遠く江戸まで運搬していました。荒川中下流域は洪水も多く、有名な水塚という家屋は、濃尾平野の輪中集落と同様、洪水対策に知恵を絞った昔の人々の工夫が見られます。これらについては川の博物館で見学ができます。

学生の皆さんは地理学科に入学した時点で学会員になっています(通教学生は入会手続きが必要です)。大学の正規の授業だけでは得られない地域学習のチャンスをぜひご利用ください。

法政大学地理学会集会委員会

巡検の申し込み先

◎集会委員会メール: shukai@chiri.info

◎学会ウェブサイトからの申し込みフォーム

◎往復はがき: 〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1 法政大学文学部地理学科 法政大学地理学会集会委員長 前杢英明宛

締切: 10月30日(月)

- * 参加者は申し込みの先着順で決定します。40名に達した時点で募集は終了となりますので、参加を希望される方は上記宛先にお早めにお申し込みください。受付が完了した時点でメール返信(往復はがきの方ははがきにて返信)させていただきます。

法政大学地理学会 2017年度第1回例会報告 シンポジウム「南極からみえる地球環境」

7月1日(土)、13:30～17:30にかけてシンポジウム「南極からみえる地球環境」を開催しました。会場は法政大学市ヶ谷キャンパス富士見ゲートG403教室でした。新しく建造された富士見ゲートでは最新の設備が整っ

ており、参加された皆様にとって法政大学発展の一端を感じられたかもしれません。

シンポジウムは司会の前杢(法政大学文学部)から開会の挨拶と簡単な趣旨説明がなされた後、中山由美氏(朝日新聞社)から「極地から地球がみえる」、宮本仁美氏(気象庁)から「南極の気象と地球環境」、伊村智先生(国立極地研究所)から「南極の生物と地球環境」、三浦英樹先生(国立極地研究所)から「南極の地形と地球環境」の講演をいただきました。その後、澤柿教伸先生(法政大学社会学部)から南極観測全体についてのコメントと閉会の挨拶を頂きました。

講演内容は恐らく「法政地理」の次号に掲載されると思いますので、詳しくはそちらをご覧くださいと思います。ここで簡単に紹介するとすれば、中山由美氏(朝日新聞社)からは、記者としてご自身で収められた様々な南極の写真や映像を南極から視えてくる地球環境の変化の解説と併せて紹介して頂きました。宮本仁美氏(気象庁)からは、南極における気象観測の意義とその成果、また観測中の映像などを紹介して頂きました。伊村智先生(国立極地研究所)からは、南極に住む生物の特徴と生態系のメカニズムを紹介して頂きました。三浦英樹先生(国立極地研究所)からは、南極の様々な地形形成プロセスについて解説して頂き、また実際の調査中の様子や今後の課題について紹介して頂きました。澤柿教伸先生(法政大学社会学部)からも、南極観測隊参加についてのお話をして頂き、学生たちの南極観測に対する熱も上がったかと思います。

参加者は121名と、多くの方に参加して頂きました。会場では、知的好奇心揺さぶられる発表ばかりで、終始真剣なまなざし、時には笑い声に包まれる共に、発表が終わるごとに多くの質問が飛び交いました。その後開かれた懇親会でも、予想をはるかに上回る人たちの参加が得られ、夜遅くまで楽しい時間を過ごすことができました。ご講演、並びにコメントをいただいた5人の先生、そして会場に足を運び、積極的に議論にご参加いただいた多くの会員諸氏に感謝する次第です。

(前杢英明 法政大学)



写真1 地球環境や極地での生活を紹介
する朝日新聞社の中山由美氏



写真4 南極の生物の講演をする国立極
地研究所の伊村 智氏



写真2 会場からの積極的な質問



写真5 100人を超える参加者を集めた今
回の例会



写真3 南極の気象・気候の講演をする気
象庁の宮本仁美氏



写真6 南極の地学と氷床変動について講
演する国立極地研究所の三浦英樹氏



写真7 極地研究の今後を展望する法政大学
社会学部の澤柿教伸氏



写真8 例会後に開かれた懇親会も盛会でした

2017年度委員会メンバー

(2017年9月30日現在)

◎常任委員長

細田 浩

◎編集委員会

委員長 加藤美雄

編集委員会

委員長 加藤 美雄

委員 吉岡 耀子、勝部 恭央、三尾 成彦、
千葉 晃、村上 祐也、架谷 力、朝
比奈 梨花、鈴木 敦

◎集会委員会

委員長 前杢 英明

委員 齋藤 圭、南 春英

◎会計委員会

委員長 狩野 真規

委員 塩谷 恭正

◎庶務委員会

委員長 米家 志乃布

委員 中村 太輔

◎広報委員会

委員長 永保 敏伸

委員 安森 直輝、羽佐田 紘大、

金子 拓矢、本橋 淳也

法政地理 50 号 (記念号) への寄稿文の依頼

編集委員会

法政大学地理学会の機関誌「法政地理」は、1950年に創刊して以来、一時期休刊しながらも、今年度は一つの区切りとなる「第50号」を迎えます。

つきましては、これを機にこれまでまとめる機会がなかった法政大学地理学会のあゆみを中心に記録的な観点から50号記念誌を作成いたしますので、下記の執筆要領により皆様からの投稿をお願いいたします。

記

1. 原稿は法政大学地理学会に関する内容で、学会の創設・活動再開、または運営や例会・巡検の思い出などをお願いします。なお、関連する写真をご提供していただければ助かります(写真は後日、返却させていただきます)。

2. 原稿の文章量はタイトルを入れて、880字(半ページ)、または1760字(1ページ)を目安に作成願います。

3. 原稿は、郵送、またはメールで以下宛に送付願います。

郵 送：102-8160 千代田区富士見2-17-1

法政大学文学部地理学教室内

法政大学地理学会 編集委員会

メール(編集委員会)：henshu@chiri.info

4. 原稿は11月末日(締め切り厳守)まで
お願いします(発行は2018年3月です)。

5. ご質問などがありましたら、郵送または
メール(宛先は上記3)でご連絡ください。

のよい情報収集ツールをお選びください。
Twitter 公式アカウントは、「@hoseichiri」、
「<https://twitter.com/hoseichiri>」です。

広報委員会

会員動向

会計委員会

【入会】(2017.6.7~8.31, 敬称略, 申込順
[一般]: 山口 隆子(東京)
[学生]: 安藤 敏昭(東京) / 中田 輝男(神
奈川) / 久津間 猛(埼玉)

【退会】(2017.6.7~8.31, :敬称略)
[一般]1名 : 中橋 正(神奈川)

【郵便未着】

浅野 友継 塚本 裕子 阿部 智臣
工藤 哲男 佐藤 功 橋本 達也

本年度の会費の納付をお願いいたします。また、
過年度分の会費が未納の方は速やかな納付をお
願いいたします。

常任委員会での決定により、会費を3年以上
滞納している会員には会誌ならびに学会ニュー
スの送付を停止することになっておりますので、
ご注意ください。なお、ご自身の会費納付状況
の確認が必要な方は、会計委員会
(kaiin_kaihi@chiri.info)までお問い合わせく
ださい。

本学会は会員皆様の会費によって運営されて
おりますので、その点をご理解いただき、ご協
力のほどよろしくをお願いいたします。

会計委員会

Twitter (ツイッター) 公式アカウントを開設
しました。



2017年9月25日に、法政大学地
理学会の Twitter (ツイッター)
公式アカウントを開設いたしまし
た。更新する内容は facebook (フ
ェイスブック) ページと同一の内容になり
ます。HP (ホームページ) もあわせて、
より使い勝手

吉野正敏先生のご逝去を悼む

法政大学の元教授でありました吉野正敏先生
が2017年7月4日に脳梗塞のため、享年89
歳でご逝去なされました。吉野先生は法政大
学助教授・教授として1967年~1974年法政大
学地理学教室において教鞭を取られ、多くの人材
を育てられて、法政大学における気候学研究の
基盤を確立なされました。吉野先生は小気候学、
局地気候学についての第一人者で、法政大学で
は気候・気象学の授業を担当されました。法政
大学在任中にアドリア海のボラ(局地風)につ
いてのご研究などを発表されています。

その後、筑波大学、愛知大学、国連大学など
において教授され、日本を代表する気候学者と
して、内外で高い評価を受けておられました。
法政大学地理学会は吉野正敏先生のご功績を偲
び、心からご冥福をお祈り申し上げます。

(常任委員長 細田 浩)

〈〈学会ニュース原稿の募集〉〉

法政大学地理学会ニュースに掲載する原稿を
広く会員の皆様から募集しております。原稿の
ご相談は、下記の連絡先までお願いいたします。
連絡先: 庶務委員会(shomu@chiri.info)

2017年9月30日発行

編集 法政大学地理学会庶務委員会

発行 法政大学地理学会常任委員会

〒102-8160

東京都千代田区富士見2-17-1

法政大学文学部地理学教室内

Fax. 03-3264-9459

E-mail hoseichiri@chiri.info

Web <http://www.chiri.info/index.html>

郵便振替 00170-9-16744

